

事務事業名		交付金活用道路修繕事業		所属部	建設部	所属課	建設工務課
総 計 画 体 系	政策名	(Ⅱ)安全・安心で快適なまち<<定住環境>>		所属G	公共土木G	課長名	松村直樹
	施策名	(12)道路の整備		担当者名	内田慎二	電話番号	0854-40-1063 (内線) 2471
	目的 対 象	市民	意図	市内及び市外へ安全で便利に移動できる。		予算科目	会計 014002 款 01009 目 01009 項 01009 大 事 業 名 中 事 業 名
	基本 事 業 名	(035)道路の維持管理		道路施設管理事業 交付金活用道路修繕事業			

1 現状把握 [DO]

(1) 事業概要

① 事業期間
<input type="checkbox"/> 単年度のみ <input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返 ( H26 年度 ~ )
<input type="checkbox"/> 期間限定複数年度 ( 年度 ~ 年度 )
② 事業内容 (期間限定複数年度事業は全体像を記述)
・道路ストック点検結果に基づき、道路維持管理計画を見直し、計画的な修繕を実施する。 ・平成28年度に実施した落石・法面緊急点検結果に基づき、緊急性の高い箇所から対策を実施する。

(2) 事務事業の手段・指標

手 段	① 主な活動					
	R2年度実績(R2年度に行った主な活動) ・路面性状調査・小規模附属物台帳作成業務 ・市道山王寺線伐採処理業務 ・市道粟谷成木線伐採処理業務 ・市道大島引野線土地分筆登記申請業務 ・市道梅木曾木線法面对策工事(その1) ・市道大島引野線落石対策工事 ・市道山王寺線落石対策工事 ・市道粟谷成木線落石対策工事 ・市道八重滝都加賀線落石対策工事 ・市道大志戸線落石対策工事 ・市道芦谷線用地費(2名) ・市道大島引野線用地費(2名)	R3年度計画(R3年度に計画する主な活動) ・路面性状調査・小規模構造物台帳作成業務 ・市道梅木曾木線法面对策工事(その2)				
	② 活動指標	単位	H30年度 (実績)	R元年度 (実績)	R2年度 (実績)	R3年度 (計画)
	ア 契約件数	件	2	9	14	2
	イ 修繕箇所(工区)数	箇所	2	9	6	1
	ウ					
	エ					

(3) 事務事業の目的・指標

目 的	① 対象(誰、何を対象にしているのか)	③ 対象指標	単位	H30年度 (実績)	R元年度 (実績)	R2年度 (実績)	R3年度 (計画)
	①生活道路の利用者 ②修繕が必要な生活道路等	ア 人口【国勢調査(推計)】	人	37,012	36,248	36,024	35,818
		イ 雲南市市道延長	km	1,112	1,111	1,108	1,108
		ウ					
② 意図(対象がどのような状態になるのか)	④ 成果指標	単位	H30年度 (実績)	R元年度 (実績)	R2年度 (実績)	R3年度 (計画)	
①市内を安全で迅速に移動できるようにする。 ②修繕(補修)等を実施する。	ア 生活道路が安全で便利だと感じている市民の割合	%	68.5	63.3	65.2	65.2	
	イ 生活道路で危ない場所があると感じている市民の割合	%	64.6	72.3	65.7	65.7	
	ウ 施工箇所	箇所	2	9	4	1	

(4) 事務事業のコスト

① 事業費の内訳 (2年度決算)	② コストの推移	単位	H30年度(決算)	R元年度(決算)	R2年度(決算)	R3年度(計画)	
【委託料】4業務 11,695千円 【法面对策工事】1路線 1箇所 9,615千円 【落石対策工事】5路線 5箇所 45,025千円 【公有財産購入費】2路線 2箇所 70千円 【需用費他】 876千円	財 源 内 訳	国庫支出金	千円	32,305	61,097	37,660	21,993
		県支出金	千円				
		地方債	千円	28,200	41,100	23,800	12,300
		その他	千円				
		一般財源	千円	1,270	5,970	5,821	4,991
		事業費計 (A)	千円	61,775	108,167	67,281	39,284
【地方債】合併特例債	人 件 費	正規職員従事人数	人	1	2	2	
		延べ業務時間	時間	300	500	500	
		人件費計 (B)	千円	1,300	2,120	2,104	
		トータルコスト(A)+(B)	千円	63,075	110,287	69,385	

(5) 事務事業の環境変化、住民意見等

① 環境変化 (この事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)はどう変化しているか? 開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか?)	② 改革改善の経緯 (この事務事業に関してこれまでどのような改革改善をしているか?)	③ 関係者からの意見・要望 (この事務事業に対して市民、議会、事業対象者、利害関係者等からどんな意見や要望が寄せられているか?)
道路維持修繕は地域要望の中で最も多く、全ての改善要望に対して充分応えることが出来ない。安全確保の必要性が高いものから順に補修を行っている。また、多くの構造物が更新時期となっており、危険箇所も増大傾向にある。今後、更に事業費が必要となっている。	・H26年度に道路ストック点検を行った。道路法一部改正に伴い、概ね10年に1度点検をしなければならない為、R元年度~R5年度において2巡目の点検を行う。 ・防災・安全社会資本整備交付金を活用することで、修繕予算を確保し、計画的な修繕の早期対応を目指している。	・市民から修繕等多数の改善要望がある。 ・議会から維持修繕の重要性和着実な実施の指摘がある。

事務事業名	交付金活用道路修繕事業	所属部	建設部	所属課	建設工務課
-------	-------------	-----	-----	-----	-------

2 事後評価【SEE】

A 目的 妥当性	① 政策体系との整合性 この事務事業の目的は市の政策体系に結びつくか？ 意図することが結びついているか？		見直し余地があると理由	
	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある	<input checked="" type="checkbox"/> 結びついている * 余地がある場合 →		
	② 公共関与の妥当性 なぜこの事業を市が行わなければならないのか？税金を投入して達成する目的か？			
B 有効性	③ 対象・意図の妥当性 対象を限定・追加する必要はないか？意図を限定・拡充する必要はないか？			
	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である * 余地がある場合 →		
	④ 成果の向上余地 成果を向上させる余地はあるか？ 成果を向上させるため現在より良いやり方ははないか？ 何が原因で成果向上が期待できないのか？			
C 効率性	<input type="checkbox"/> 向上余地がある	理由	<ul style="list-style-type: none"> <li>・道路パトロールにより修繕箇所を把握し、計画に基づき修繕等を行っているため、成果は既に最大である。</li> <li>・平成26年度に道路ストック点検を行っており、優先度評価や特定財源の確保に努めることで、成果の向上を図った。</li> </ul>	
	<input checked="" type="checkbox"/> 向上余地がない			
	⑤ 廃止・休止の成果への影響 この事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は？			
D 公平性	<input type="checkbox"/> 影響無	理由	<ul style="list-style-type: none"> <li>・廃止すれば、道路の安全性が低下する。</li> <li>・市民からの修繕要望に応えられなくなる。</li> </ul>	
	<input checked="" type="checkbox"/> 影響有			
	⑥ 類似事業との統廃合・連携の可能性 目的達成には、この事務事業以外の手段(類似事業)はないか？ ある場合、その類似事業との統廃合・連携ができるか？			
E 評価の 総括	<input type="checkbox"/> 他に手段がある * ある場合 → (具体的な手段や類似事業名)	理由	<ul style="list-style-type: none"> <li>・道路維持管理計画で、通常維持である道路維持補修事業と大規模修繕である本事業について整理しており、類似事業の統廃合はない。</li> </ul>	
	<input type="checkbox"/> 統廃合・連携ができる			
	<input checked="" type="checkbox"/> 他に手段がない			
F 改革・改善 による 期待 成果	⑦ 事業費の削減余地 成果を下げずに事業費を削減できないか？(仕様や工法の適正化、住民の協力など)			
	<input type="checkbox"/> 削減余地がある	理由		<ul style="list-style-type: none"> <li>・道路維持管理等に必要な経費である。</li> <li>・修繕要望箇所は多く、本事業の拡充を望む声もある。</li> </ul>
	<input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない			
⑧ 人件費(延べ業務時間)の削減余地 成果を下げずにやり方の工夫で延べ業務時間を削減できないか？ 正職員以外や外部委託ができないか？				
G 改革・改善 による 期待 成果	<input type="checkbox"/> 削減余地がある	理由	<ul style="list-style-type: none"> <li>・道路維持管理等に必要な経費である。</li> <li>・修繕要望箇所は多く、本事業の拡充を望む声もある。</li> </ul>	
	<input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない			
	⑨ 受益機会・費用負担の適正化余地 事業内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？ 受益者負担が公平・公正か？			
H 改革・改善 による 期待 成果	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある	理由	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市内全域の道路維持管理を行うものであり公平である。</li> <li>・市が行うべき道路維持管理であるため、受益者負担はない。</li> </ul>	
	<input checked="" type="checkbox"/> 公平・公正である			
	① 1次評価者としての評価結果			
I 改革・改善 による 期待 成果	A 目的妥当性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり		② 1次評価結果の総括(根拠と理由)	
	B 有効性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり			
	C 効率性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり			
D 公平性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり		<ul style="list-style-type: none"> <li>・本事業は市民、議会及び職員にも事業効果について理解を得られていると考えている。</li> <li>・対応できなかった修繕を計画的に行うことができ、道路利用者の安全が確保できる。</li> </ul>		

3 今後の方向性【PLAN】

① 1次評価者としての事務事業の方向性(改革改善案)・・・複数選択可	② 改革・改善による期待成果																				
<input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 目的再設定 <input type="checkbox"/> 事業統廃合・連携 <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善(有効性改善) <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善(効率性改善) <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善(公平性改善) <input checked="" type="checkbox"/> 現状維持(従来通りで特に改革改善をしない)	<table border="1"> <tr> <td></td> <td colspan="3">コスト</td> </tr> <tr> <td></td> <td>削減</td> <td>維持</td> <td>増加</td> </tr> <tr> <td>向上</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td>●</td> <td>×</td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </table> <p>廃止・休止の場合は記入不要。 コストが増加(新たに費やし)で成果が向上しない、もしくはコスト維持で成果低下では改革・改善とはならない。</p>		コスト				削減	維持	増加	向上				維持		●	×	低下		×	×
		コスト																			
		削減	維持	増加																	
向上																					
維持		●	×																		
低下		×	×																		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成24年度に策定した「道路維持管理計画」に基づき平成25年度より、毎年ローリングを行い、一定規模以上の維持修繕は「交付金活用道路修繕事業」により修繕を図っている。</li> <li>・道路維持予算を維持していかなければ、道路施設の老朽化が進み、市民生活に多大な影響が出ることが予想される。</li> <li>・防災・安全社会資本整備交付金を活用することで、修繕予算を確保し、計画的な修繕の早期対応を目指している。</li> </ul>																					